

Y. Y. 2023年卒 地域マネジメントコース

こんな学生時代を過ごしました

私の大学生活は、とにかく“地域と全力で向き合った4年間”でした。

1～2年生の実習では「小倉活性化プロジェクト」に所属してし、街中でのコンシェルジュ対応や講座づくりなど、地域の方と直接関わる経験を多く積みました。また、2年次では、当時は30人ほどの実習メンバーの全体リーダーを任されており、役割分担やスケジュール調整などに悩むこともありましたが、みんなで一つの目標に向かって動く楽しさと、責任ある立場で進めていくやりがいを強く感じました。

ゼミでは廣川ゼミに所属し、京築地区を舞台にフットパス活動に3年間取り組みました。ゼミの仲間と協力しながら、フットパスコースを作り、地域の魅力をどうしたら歩いて伝えられるか、何度も現地を歩きながら考えました。さらに、活動を一度きりで終わらせず、地域に根付く形にするために、ガイドさんの育成や運営にも力を入れました。地域の方々が自分たちでフットパスを続けてくれているのを見ると、地道に積み上げてきたものが形になったんだと実感しています。

実習やゼミ以外にも、421laboの平和の駅プロジェクトに所属し、小倉祇園太鼓を叩きながら、小倉から長崎まで自転車で走って、さまざまな平和活動に関わったりと、幅広い経験をさせてもらいました。活動のたびに新しい人との出会いがあり、地域には本当に温かい人が多いことを知りました。

忙しい日々ではありましたが、同期や先輩・後輩と励まし合いながら乗り越え、アルバイトや旅行などのプライベートも思い切り楽しみました。大学生活を振り返ると、人と一緒に何かをつくることの面白さ、地域に貢献することの喜びを深く感じられた4年間だったと思います。この経験は、これから先の人生でもずっと大切にしていきたいと思っています。



小倉活性化プロジェクトのまちなかコンシェルジュ隊での活動の様子。仲間たちと一生懸命頑張ったのはいい思い出です！

卒業後こんなキャリアを歩んでいます

地域創生学群を卒業後、株式会社ローカルに入社し、ふるさと納税の運営代行業務に携わっています。岡山や和歌山など全国を飛び回りながら経験を積み、現在は熊本県内の2自治体のコンサルティングを担当しています。業務内容は、返礼品の戦略設計、事業者開拓、サイト運用、寄付額向上のためのデータ分析など多岐にわたり、自治体の収益最大化に向けた総合的な支援を行っています。また、4名のメンバーをまとめるチームリーダーとして、業務管理や育成にも取り組んでいます。自治体や事業者の方々とは信頼関係を築きながら成果を創出する点に難しさややりがいがあり、学生時代に培った地域の方とのコミュニケーション力や、目的から逆算して行動計画を立てる力が大きく活かされています。

担当自治体では、返礼品の企画提案や自治体担当者との定期的な戦略会議を通じて寄付額向上に貢献してきました。課題を整理し、地域の強みを引き出した戦略に落とし込むプロセスは、大学で学んだ地域創生の知識がそのまま実務に結びついていると実感しています。

将来的には、地方創生とエンタメを掛け合わせた事業を地元で立ち上げたいと夢があります。地域の魅力をエンタメという形でより多くの人へ伝えながら、持続的な盛り上がりへつなげる仕組みづくりが目標です。表面的な魅力発信だけでは地域は元気にならないと考えているため、まずは自治体の財源づくりや事業者支援の仕組みに深く関わり、地域経済の構造を理解することに力を入れています。今後はエンタメ分野での経験も重ねながら、地域活性に新たな価値を生み出せる人になりたいと考えています。



現在も仕事でイベントを実施することがあり、学生時代の経験が役立っています。

現役生へのメッセージ

大学生活は、自分の可能性をいくらかでも広げられる時間です。挑戦した分だけ視野が広がり、人とのつながりが自分を強くしてくれます。動いた経験は必ず力になります。仲間と支え合いながら、自分が「面白い」と思えることに思い切り取り組んでください。気づいた頃には、自分だけの武器が必ず育っています。どうか今の時間を大切に、楽しみながら進んでください。